

令和6年度釧路市立北中学校「教職員による学校評価」7月

【結果分析】

4：している 3：どちらかといえばしている 2：あまりしていない 1：していない

	評価項目	4	3	2	1
1	【経営理念】私は、学校経営理念（生徒も、教職員も、一人一人が「主語」になる学校）の実現を常に意識し、自立した学習者として各種実践や業務に取り組んでいる。	28.6%	64.3%	7.1%	0.0%
2	【重点目標】私は、目指す生徒の姿（自分が出会う世界（人、物事、状況）をよりよい形にデザインできる生徒）の実現を常に意識し、日常の授業改善や分掌業務、学年・学級経営等に取り組んでいる。	42.9%	50.0%	7.1%	0.0%
3	【重点目標】私は、生徒が10の資質・能力（創造表現、情報活用、自己理解、選択、対話、つながり、自己承認、内発動機、他者尊重、未来志向）を獲得するよう、日常の授業改善や分掌業務、学年・学級経営等に取り組んでいる。	35.7%	64.3%	0.0%	0.0%
4	【学習指導】私は、単元（題材）を通した評価規準を確実に実現させるため、不断の授業改善を推進している。	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%
5	【学習指導】私は、「授業で勝負できる教師（新たな教師の学びの姿）」の実現を目指すため、校内研修に参画している。	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
6	【学習指導】本校は、探求的な学びを位置付けた「総合的な学習の時間」の実施に向け、試行錯誤しながら各種取組を推進している。	57.1%	35.7%	0.0%	7.1%
7	【学級経営】私は、生徒指導の実践上の視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を取り入れた学級経営計画を作成し、戦略的に活用（学級目標の実現状況を把握する評価の実施）している。	16.7%	58.3%	25.0%	0.0%
8	【生徒指導】私は、多様性の承認や他者尊重、相互理解等を重視した「発達支持的生徒指導」を推進している。	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%
9	【働き方】私は、「北中アクションプラン」を確実に推進している。	21.4%	57.1%	14.3%	7.1%
10	【働き方】私は、コアチームから提示された各種取組を推進するとともに、不断に業務の見直しに努めている。	21.4%	50.0%	21.4%	7.1%
11	【働き方】私は、「事案決定システム」と「DCAP 直後プラン方式」を徹底して活用し、業務改善を推進している。	21.4%	64.3%	7.1%	7.1%
12	【部活動】私は、「部活動の活動方針」を踏まえて部活動を実施している。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
13	【部活動】本校は、本校の実態を重視した部活動の地域移行に向けて検討している。	0.0%	14.3%	64.3%	21.4%
14	【GIGA】私は、校務支援システム「i-future」の活用による学校DXを推進している。	7.1%	14.3%	64.3%	14.3%
15	【GIGA】私は、生徒が主体的に端末を活用するよう促している。	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%
16	【連携協働】私は、「小中ジョイントプロジェクト」を活用した組織的・戦略的な校区内小学校との連携を促進している。	35.7%	35.7%	14.3%	14.3%

17	【連携協働】本校は、学校教育目標の実現と学校課題の改善を基盤にした「地域と共にある学校づくり」を推進している。	57.1%	35.7%	0.0%	7.1%
18	【連携協働】私は、地域の教育資源（家庭、地域、関係機関等）を積極的に活用して教育活動の充実を図っている。	33.3%	41.7%	16.7%	8.3%
19	【安心安全】本校は、登校に困り感を抱える生徒の学びの保障と社会的復帰に向けた支援を実現する学校体制を構築している。	42.9%	35.7%	21.4%	0.0%
20	【安心安全】本校は、特別支援学級の教育課程の改善及び全教職員が当事者意識をもった特別支援教育を推進している。	64.3%	14.3%	21.4%	0.0%
21	【安心安全】本校は、いじめや災害等に対する危機意識の醸成を図る研修等を実施している。	21.4%	42.9%	28.6%	7.1%
22	【安心安全】私は、いじめや災害等に対する危機意識の醸成を図るため各マニュアル等を不断に見直している。	7.1%	35.7%	50.0%	7.1%

【改善の方向性】

※ 肯定的な回答において「7割未満」の評価項目を課題として捉え改善の方向性を示します。

13 部活動の地域移行については、国や道、釧路市の動向等を踏まえたり、本校の実態（部活動の地域移行が本校にとって、どれだけ緊急性、必要性等があるのか）を捉えたりするなどして検討していく必要があります。ただし、近い将来、教員の業務から部活動が切り離される（教員が別の形態で部活動を担当する）可能性は高いという認識はもっておく必要があります。

14 校務支援システム「i-future」の活用は釧路市に勤務する私たちにとっては「マスト」です。活用に当たって、不便さや難しさはありますが、出席簿や生徒名簿の作成など、できることから活用し、まずは慣れていくことが肝要かと思えます。教頭等を中心として、i-futureの活用に向けたチームを編制し、活用についての情報を発信するなど、検討してもよいと思えます。

21 生徒指導部が高島校長を招聘して研修会を企画してくれました。現在の本校の実態を踏まえたタイムリーな研修だと認識しています。1月の能登半島地震、夏季休業期間中の南海トラフ地震臨時情報の発表、山形県で発生した豪雨災害等、いつ災害が起きても不思議ではありません。このことから、いじめや災害等に関する研修は必要です。集合形式だけでなく、資料提示や口頭説明等、様々な形式があります。2学期中に企画してもよいと思えます。

22 今年度から「熱中症の対応」についてのマニュアルが加わりました。これは、昨年度の熱中症警報アラートの発令等を踏まえて、堺田教諭が作成してくれたものです。学校経営計画の最終章に各種のマニュアルが掲載されています。本校の現状を踏まえた内容等になっているのか、検証する必要があります。分担などすればすぐにでも着手できると思えます。「使えるマニュアル」にしたいと思います。